
オレとバカどもと召喚獣

奇跡的な人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オレとバカどもと召喚獣

【Nコード】

N5181Z

【作者名】

奇跡的な人間

【あらすじ】

文月学園にやってきたアメリカからの帰国子女の転校生・桐谷颯人は、文月学園学園長・藤堂カヲルの説明を聞かずにテスト時間中に居眠りをしてしまったがためにFクラス配属となってしまった高校2年生。彼はFクラスにて幼馴染である吉井明久と、初恋の人・姫路瑞希と再開する。彼はそのほかのFクラス生徒、坂本雄二・木下秀吉・島田美波・土屋康太と仲を深めていく、バカとテストと召喚獣の二次創作物語。

オリキャラ紹介

桐谷 颯人 きりや はやと

17歳

いわずと知れた(?)この話の主人公。

特技(または好きなもの) 喧嘩、読書、後たまに悪戯

得意教科 英語(帰国子女) 世界史 数学

苦手教科 日本史(外国に長くいたため、それほど詳しくない。でも一応できる)

容姿 髪色：漆黒 瞳：明るい赤 とういか見た目は『ガンダム SEED DESTINY』にでてくる『シン・アスカ』そのもの小6の途中からアメリカで暮らしていて、現在親に勘当されて日本に1人帰国。仕送りはなく、持ち前の金運で宝くじやらスクラッチで生活している。料理もできる。アメリカに行く前は文月学園がある町で暮らしていて、そのためその町に引っ越して(戻って)来た。学費が安いという理由で文月学園に転入。昔アメリカに行く前は吉井明久や姫路瑞希と同じ小学校に通っていて、仲が良かった。吉井明久とは親友で、姫路瑞希には好意を抱いていた。無論、今でも抱いている。文月学園はテストの成績が悪くても入れると聞いたので試験の間は爆睡。しかし本気を出せばAクラスどころか学年首席も造作もないが、本人の気まぐれと人の話を聞かないせいでFクラスになった(テストの成績でクラスが決まることを知らなかった)。そのため、学園長には恨みを持っている。

『これも全て、クソババア(学園長)の仕業なんだっ、』が口癖だったり・・・しないか。

資料などは完璧に熟読するほどのマニユアル族。たとえるならそれは後藤慎太郎さんの様。そのため文月学園の試験召喚戦争による教室奪取システムを完璧に理解している。

学力、策略、運動神経どれも人間離れしており、学力ではハーバード大学にちゃっっちゃっと入れるぐらいだったりして。端教科でも1000点以上いくことのできる唯一の人物（今のところ）。

一人称は『俺』。気に入らないものは全力でつぶすことを心情にしている。

『俺の事を好きにならない人間は邪魔なんだよ!』

草加雅人に似ていたりは・・・しない（多分）。

召喚獣

格好はザフトの赤服。

武器はハンドガン2丁、と短剣。

腕輪の力は『変身』

召喚獣の姿と武器を変えることができる。点数は消費されない。

腕輪の力で召喚獣が変身する姿

今のところは・・・

1・格好 学ランに変わる。背中にはフォースシルエットの放熱板を兼ねた6枚の翼の様なものが付いている。

装備 ライフルとビームサーベル2つ。

特徴 中距離に特化した装備。フォースインパルス

2 ・格好 西洋風の格好に『超変身』!!!

装備 巨大な剣とブーメラン

特徴 近距離に特化した装備。ソードインパルス

3 ・格好 アメリカ海兵隊の服装に変わる。『Semper Fi

!』

装備 巨大なビームライフルとハンドガンが1丁。

特徴 遠距離に特化した装備。『若干エイっぱいのは気にす

るな!』

ブラストインパルス

また、腕輪の力以外に召喚者の召喚獣の操作技術を極限までに高めることのできる『SEED』を本編の途中で使用可能になる……

・・予定。

第1問・転校生、Fクラスへ

颯人「ここか・・・」

オレが今たっているのは、『文月学園』の正門。オレは今日からここで高校生活を送る。なぜここにいるかって？なぜならテストを行うためさ！

西村「おお前が転入してきた桐谷か、」

うわっ、なんだこの人？なんというか、ゴリマッチョというか、巨大というか、鉄のかたまりというか・・・

颯人「・・・鉄人28号？」

西村「なんかいったか？」

颯人「なんでもないです！」

うわっ、ものすごい目で睨まれたよ・・・目エつけられたかも。この人たしか生活指導の先生だよ・・・最悪だ！

それはさておき、なぜ俺がここに来たのかを説明しよう（さっきした気はするが）。俺は何のなのは分からないがテストをやるらしい。

西村「テストの前にこのテストの説明をしたいと思う。それは学園長から、どつぞ。」

学園長・・・どうしてたかが転入のテスト（だと思われるもの）に
学園長じきじきに説明がいるの？

学園長「この学園の学園長さね。」

うわ、なんというか・・・ MONSTER ？

学園長「なんか言ったださね？」

颯人「い、いえ何も！」

学園長「まずこのテストさわね、転入にはなんら関係がないんじゃ。」

颯人「はあ！？それどういう意味ですか？」

学園長「ようは0点とっても入れるって事さね。」

颯人「じゃあオレ寝るわ。」

学園長「はあ？」

颯人「はあ？じゃねーよ！今何時だと思っているだよ！12時だぞ！
深夜の12時だぞ！良い子はみんな寝ている時間だぞ！その時間を6時間も使つてなんの意味もないテストなんかやるもんか！」

学園長「ちょい待ち！まだ説明は・・・」

颯人「・・・くかー・・・くかー・・・」

学園長「って聞いてないか・・・もったいないねえ、こいつもやれば学年主席も目じゃないっていつのに・・・」

そして、陽はまた昇る。

颯人「フアアアア~~~~・・・あれ、そついや登校時間って何時だ？」

俺は手持ちの生徒手帳を確認。

ワオ、7時50分。

今は？

颯人「・・・7時48分。」

転入初日に遅刻！？

そんなのダメだ・・・遅刻なんてしたらみんなからの第一印象というものが・・・

今、オレは脳内で4枚のカードを持っている。・・・いわばライフカードだ。

1枚目のカード 『ダッシュ』

2枚目のカード 『就寝』
3枚目のカード 『不登校』
4枚目のカード 『遅刻』

・・・ダメだ。まず不登校は良くない。転入初日から不良生徒というまったく不必要なレッテルを貼られてしまう。このまま就寝もよくない。オレは2枚目のカードと3枚目のカードを脳内で破り捨てた。残るカードは『ダッシュ』と『遅刻』。まず考えてみよう。もしオレが普通に何事もなかったかのように遅刻してきたら・・・

妄想中

ガラガラガラ

オレ『こんにちはー、どーも遅れましたー』 棒読み

先生『転入初日とはどういうことだ!』

予想されるみんなの反応『あいつなんなんだよ・・・』 『何調子に乗ってやがんだ・・・』 『ぶっ殺す』

妄想終了

・・・ダメだ。先生からの印象も悪くなるし、周囲からも・・・最後のひとつはまあ、ないか・・・オレは脳内で『遅刻』のカード

を破り捨てた。俺に残された道・・・それは、『ダッシュ』!!!
これを導き出すのにわずか0.09秒。最初からそうしろよ、だっ
て?そんな言葉、オレには聞こえないな。

そう思っていると、鉄人28号・・・じゃなかった西村教諭がオレ
ところに来た。

西村「桐谷・・・お前のクラスを覚えておく。」

そういうと西村教諭はオレに封筒を渡した。俺はその封筒を開ける
と、中から出てきた紙は・・・

『桐谷颯人 Fクラス』

別にこんなご丁寧に封筒に入れなくても・・・そう言っている暇な
ど、到底なかった。現在、午前7時58分39.013秒・・・!

俺はダッシュで教室に向かった。場所はどこだか分かっているかっ
て?そんなの生徒手帳に載っていただろ・・・俺はマニュアルが大
好きなんだ!(後藤さんふうに)

颯人「s腹の虫「ぐうううう」」

そっぴや朝飯もまだだった・・・でも、今はそれどころじゃない!

Fクラスがあるのは旧校舎・・・旧校舎に向かうには新校舎にある
階段を上っていかなきゃいけない。まず見えたのは・・・Aクラス
・・・スゲー、エアコンにノートパソコン、リクライニングシート

があればシステムデスクまで・・・これはもしかするとFクラスもこんな設備か!?

俺は走りながら順にBクラス、Cクラス、Dクラス、Eクラスを見た。・・・なんか、設備だどんどん悪くなっているようで・・・それと中にいるやつも、どんどんバカっぽいやつが多くなってきた。

そしてFクラス。これは・・・設備は廃屋そのものじゃねえーか!机と椅子にいたっては足の折れた卓袱台と腐った畳、綿の殆ど入っていない座布団・・・おまけのチョコクとかの消耗品もろくにねえだど!!!?? いったいドウナツテイルンダ!??・・・ダメだ、めまいがしてきやがったぜ・・・これが本当の『orz』ってやつか・・・ゆるさねえ・・・オレをこんな廃屋同然のクラスに入れやがったクソババア(学園長)!オレはいずれ絶対お前をブッコロス!

俺は教室の中をチェックした。・・・なんだこの教室。アホ面ばっかじゃん。おまけに女子がいな・・・あつ1人いた。やっぱ女子がいるとドンだけみすばらしくても華があるよね。

???「おや、君は」

俺は後ろを振り返った。そこには教師らしき人がいた。

颯人「あつ、新参者ツス。」

福原「そうですか、君が転校生の・・・私はこのクラスの担任の福原です。よろしく」

颯人「あつ、どうも」

そついうと福原教諭はクラスの中に入った。

福原「えーではみなさん、席についてもらえますか？HRを始めますので」

福原教諭はざわついているやつらが黙るを待つてから壇上でゆつくりと口を開いた。

福原「えー、おはようございます。二年F組担任の福原慎ふくはらしんです。・

よろしく願ひします。」

あちゃー・・・チヨーク無いから黒板に名前書くのあきらめちゃったよ。

福原「ではみなさん・・・全員に卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば申し出てください」

生徒「せんせー、座布団に綿が入ってないです」

福原「仕方がないので我慢してください」

生徒「せんせー、窓が割れてて隙間風が寒いです」

福原「・・・・・・我慢してください」

生徒「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原「ボンドで直してください」

大丈夫かよ、こんなクラスで・・・ポンドしかないクラスってなんだ・・・っーかなんでポンドはあるのにそれ以外なんにもないんだ!?!?.....ひどすぎる。先が思いやられるよ・・・

福原「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生君からやってもらいましょう」

ざわざわ.....

生徒「男だろ?どーでもいい.....」

生徒「かつたりー.....早く帰りさせろよー」

壮絶だな・・・確かにオレも転校生が女子じゃなかったとき、あーあくらいにはなるけどさ!?!?本人が聞こえるように言わなくてもよくね!?!?

俺はAクラスの教室を見ようと首を伸ばした。無論、見えるわけもない。見えるのは向こう側の階段だけ。

福原「では、桐谷くん、入ってきてください」

はあー.....しかない、行くとするかな.....

俺は視線をFクラスという名の現実に戻した。

ガラガラガラ

オレがFクラスの教室に入ったとき、向こうの階段から誰かが来た。ピンク色の髪をした、俺の幼馴染が.....

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5181z/>

オレとバカどもと召喚獣

2011年12月23日00時54分発行